モノづくりの力 伝え、高める

経済のグローバル化に伴い、モノづくりの現地化も進んでいる。そうした中、市場が拡大する海外に成長を求める関西の大手企業は世界で均一の技術や品質を提供するため、蓄積してきた高い技能を日本から世界へと発信して引き継ぐ取り組みに力を注ぐ。また日本国内での市況が改善し、需要に対応する業界は生産現場で工程の効率化、省力化などあらゆる知恵を絞っている。

技能継承、海外へも
品質維持し世界で勝つ
関西の大手メーカー

クボタは全世界のグループのモノづくり力向上のため毎年技能コンクールを開いている。今年は2月に開催した。グローバル規模になってからは3回目。米国、中国、タイなど海外拠点から44人が参加。国内事業所や関連会社を含め201人が競技ごとに腕を競った。

益本康男会長兼社長は「日本の農機が世界で受け入れられるのは、どこで作っても日本と同じ高い性能と品質を持つから。これは技能の力がないと保てない」と、技能の維持・向上を重視する。コンクールはその一環だ。

競技内容は、旋盤、半自動溶接、組み立てのほか、ポンチ絵、玉掛け・クレーンなど多岐にわたる。鋳物競技では、初めてタイから2人が参加。うち1人は女性で、環境の違いに苦労しつつ鋳型を仕上げる姿があった。

ヤンマーは、2013年に中国で建設機械やフォークリフトに搭載する産業用立型水冷ディーゼルエンジンの生産を開始したのを機に国内メーン工場のびわ工場（滋賀県長浜市）のマザー工場としての位置づけをより明確化している。

びわ工場の坂本正紀工場長によると、びわ工場は先進国向けの高付加価値製品を多品種少量生産する拠点、中国はアジアと中国向けの生産拠点と役割を分担した。びわ工場は生産技術を確立し、そのノウハウを世界に伝える立場だ。自らの品質を高めると同時にグループ全体の底上げも担う。海外人材の育成や指導もしていく必要がある。

中国工場の立ち上がりは順調だが「これからが勝負。びわ工場も気持ちを一つにしてトラブルがないように生産量の拡大を進めたい」（坂本工場長）と話している。

直径数㎜のコイルから鉄骨が切り取られ、住宅部材パネルのフレームにロボットで次々と組み立てられていく―。大和ハウス工業は13年12月、プレハブ住宅用の奈良工場（奈良市）を一部刷新し、操業を始めた。

デフレ政策や消費増税前の駆け込みで住宅需要が伸びる一方、長引いた建設不況の影響で建築技能者は大幅に不足。そこで住宅メーカーは部材の生産や組み立ての自動化に努め、技能者不足を克服している。自動化を追求できるラインでは自動車の部品工場のように、住宅部材ができあがる。

技能が必要な外壁パネルを生産する奈良工場第一工場でも、省力機器を駆使してフレームに面材や木材、サッシなどを組み付ける。モノづくりの革新により現場で利益を生む日本的スタイルは、住宅業界も変わらない。

上クボタの技能コンクールの様子 左マザー工場の役割が明確化したヤンマーのびわ工場

国内マーケットを深耕
独自技術や連携で新製品

赤松電機製作所（大阪市東成区）は送風機などの環境装置を手がけており「ONIKAZE」ブランドで知られる。現在は工作機械から排出したオイルミストを処理する集じん機で12年発売の「スマートミストマジック」が好調だ。フィルターを使わず遠心分離で起こした風の力で排出するシンプルな構造によりメンテナンスの負担を軽減している。

13年4月には同じ原理を用いたクーラント清掃用のスラッジバキューム「スーパーバキュームマジック」を発売。非常に強い吸引力を持ち、粉じんや液体、スラッジ、切削粉を同時に処理できる。汚れも水分もフィルターに付着しない。これまでになかった製品だけに顧客の反応は上々で、展示会で受注するなど手応えをつかみ始めている。

同年10月にはさいたま市に営業所を設置し、関東地域の市場開拓を本格化した。社内では若手が中心となって活動する体制を築き〝オールラウンダー〟の育成を目指す。

シリンダーなど油圧機器を得意とするTAIYO（大阪市東淀川区）は12年に米パーカー・ハネフィンのTOB（株式公開買い付け）を受け入れて完全子会社となった。その後、両社の連携を進め13年秋から新製品を相次ぎ投入している。シリンダーが中心のTAIYOとパーカーが持つ周辺機器や制御系などを組み合わせたシステム全体での提案が可能になりシナジー創出に自信をみせる。

TAIYOの成長戦略は挑戦的だ。18年度の売上高を12年度比2倍の350億円に引き上げ、売上高営業利益率も12年度の7・5%を18年度に15%へ高める。収益の半分はパーカーの技術を組み合わせたシステムが稼ぐ算段だ。加えてパーカーの製品をTAIYOが日本仕様に合わせて調整し、国内ユーザーに提供して販路を拡大する。

すでにパーカーの技術を使い容量を20分の1にしたアクチュエーターや寿命を最大6倍にした油圧モーターなどを発売、好評を得ている。

関西経済 復権への鼓動
翔る未来へ